SHOW-HEYシネマルーム

★★★★★

お引越し
4K リマスター版

1993 年／日本映画
配給：ビターズ・エンド／124 分

2025（令和 7）年 1 月 11 日鑑賞	テアトル梅田

Data　２０２５－６

監督：相米慎二
脚本：奥寺佐渡子、小此木聡
原作：ひこ・田中『お引越し』（福武書店刊）
出演：中井貴一／桜田淳子／田畑智子／笑福亭鶴瓶

みどころ

私は『セーラー服と機関銃』（81 年）の相米慎二監督に格別の興味がなかったが、没後 20 年の今、「鬼才・相米慎二は今、世界の“SOMAI”へ」として 4K リマスター版で復活した本作を観て、その企画に納得！「張芸謀　艶やかなる紅の世界」で観た張芸謀監督も天才だが、①ストーリー構成の妙、②色使いの妙、③新人女優抜擢の妙、の 3 点で両者の才能は酷似！

本作最大の注目点は、子役としてデビューし新人賞を総ナメにした田畑智子の演技と、1970 年代のアイドル歌手・桜田淳子の女優としての演技力だが、“受けの演技”に徹した名優・中井貴一の演技力もすごい。それを演出した相米監督の才能にビックリなら、本作ラストの琵琶湖での彷徨と 2 人のレンコの邂逅シーンに見る演出の素晴らしさにもビックリ！なるほど、なるほど、鬼才・相米慎二の才能に拍手。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■没後 20 年、鬼才・相米慎二作品を 40 年後の今初鑑賞■□■

私は、自分の弁護士事務所を開設した 1979 年から 2 年後に公開された『セーラー服と機関銃』（81 年）をよく知っているが、それは当時の角川映画の宣伝力と、主演女優・薬師丸ひろ子の魅力、そしてあまりにも刺激的かつ過激なタイトルのおかげだった。その当時は仕事が急がしく、映画館で映画を見ることは「夢のまた夢」だったため、同作を観たのは、ずっと後に TV で放映された時だった。

したがって、同作の監督が相米慎二だということは全く知らなかったし、同監督への興味も持っていなかった。また、相米慎二監督のその後の作品についても、速水典子主演の『ラブホテル』（85 年）や、工藤夕貴主演の『台風クラブ』（85 年）等を主演女優の関係で知っている程度だったから、相米監督が 2001 年に 53 歳の若さで亡くなったことも全然知

らなかった。さらに、1949 年生れの私と同世代である彼の下記のプロフィールも全く知らなかった。

Profile
1948 年、岩手県生まれ。長谷川和彦や曽根中生、寺山修司の下で主にロマンポルノの助監督を務めたのち、『翔んだカップル』（80 年）で映画監督としてデビュー。82 年、長谷川和彦、根岸吉太郎、黒沢清ら若手監督 9 人による企画・制作会社「ディレクターズ・カンパニー」を設立。『台風クラブ』（85）は第 1 回東京国際映画祭［ヤングシネマ］でグランプリを受賞。その後、『お引越し』（93）が芸術選奨文部大臣賞を受賞、第 46 回カンヌ国際映画祭ある視点部門に出品。『あ、春』（98）は 99 年キネマ旬報ベスト・テンの日本映画第 1 位に選出されたほか、第 49 回ベルリン国際映画祭で国際映画批評家連盟賞を受賞した。2001 年、遺作となった小泉今日子主演の『風花』を発表し、9 月 9 日逝去。享年 53。

しかして、「鬼才・相米慎二は今、世界の“SOMAI”へ」と題して、彼の 2 作品が、今般 4K リマスター版で復活！

■□■「お引越し」の意味は？主人公は？テーマは？■□■

タイトルを文字通りの「引越し」と理解すれば、私たち団塊の世代はすぐに「アート引越センター」のコマーシャルを思い出すが、なぜ相米監督が本作をそんなシンプルなタイトルにしたのかは、三角形の食卓を、父・ケンイチ（中井貴一）、母・ナズナ（桜田淳子）、娘・レンコ（田畑智子）の 3 人が囲む冒頭のシーンで暗示された上で、ある引っ越しのシーンが明示されるのでそれに注目！さらにそこでは、食卓がパンフレットに写されている三角形であることに注目！1993 年は土地バブルが崩壊した直後だが、こんな特注の食卓は相当高かったはずだ。もっとも、注目すべきはそれではなく、食品とお箸の当たる音だけが響く、（異常に）静かな食事風景の中、突然立ち上がったレンコが、「食卓で会話の弾む明るい家庭」と叫ぶことだ。これは一体ナニ？

続く引っ越し当日のシーンでは、引っ越しを手伝うレンコが大きな押入れの中に入り、父・ケンイチと「あるとき突然な、ここと私の部屋の押入れがつながってしまうんや。超常現象や」とはしゃぎ回るシーンが登場する。どうも、ここが新居らしいが、続いて再び登場する三角形の食卓での、母・ナズナと娘・レンコの 2 人だけの食事シーンを見ると、そこではじめて、この「引っ越し」が家族 3 人揃ってのものではなく、父・ケンイチだけの「引っ越し」であることがわかる。すると、この「引っ越し」はケンイチの転勤によるもの？それとも、両親の別居？離婚？

■□■相米監督は、レンコの視点で両親の別居を真正面から！■□■

2025 年の今、私は女優・田畑智子を『隠し剣　鬼の爪』（04 年）（『シネマ 6』188 頁）、『血と骨』（04 年）（『シネマ 6』73 頁）、『舞妓はレディ』（14 年）（『シネマ 33』286 頁）等で知っている。しかし、彼女が本作で子役としてデビューし、新人賞を総ナメにしたこ

とを知ってビックリ！さらに Wikipedia で調べてみると、彼女はオーディションで 8253 人の応募者の中から抜擢されたそうだから、立派なものだ。中井貴一の娘役を演じる小学校高学年の女の子を探していた相米監督が、なぜ彼女を選んだのかは、冒頭の「食卓で会話の弾む明るい家庭！」のセリフ回しと、女の子のくせにやたら走り回る姿を見て、なるほど、と納得！

子供の成長は男の子よりも女の子の方が早いから、レンコくらいの小学校高学年になると、いわゆる思春期はすぐ間近。もちろん、思春期になると異性への思いを中心に、その人なりの人格形成がされていくが、レンコの場合は、それ以前に、冒頭に見る父・ケンイチの「お引越し」という事態の中で、両親の別居という厳しい局面と直面することに。レンコの希望は、冒頭の食卓で叫んでいた「食卓で会話の弾む明るい家庭」だが、さてその現実は？

■□■桜田淳子の主演にビックリ！彼女の才能がキラリ!■□■

本作は両親の別居問題の中で揺れ動く娘レンコの気持ちを相米監督がレンコの視点で真正面から描くものだが、小学校高学年にしてはやたらに（？）しっかりしているレンコと同じように、桜田淳子演じる母・ナズナもしっかり者だから、それに注目！

桜田淳子は、「スター誕生」の第 4 代グランドチャンピオンとなり、デビュー3 枚目のシングル『わたしの青い鳥』の大ヒットで新人賞を総ナメに。そして、森昌子、山口百恵とともに「花の中三トリオ」の一人としてトップアイドル、トップ歌手として大活躍を続けた。最も長く歌手としての活動を続け森進一と結婚した実力派の森昌子や、歌手だけでなく女優としても天賦の才能を見せ三浦友和とのコンビが大人気となった山口百恵に比べると、アイドル歌手としての人気が先行した桜田淳子は、1983 年には芸能活動を停止し、女優活動にウエイトを置いた。ところが、1992 年に大問題となった統一協会の合同結婚式への参加問題を契機に、「桜田淳子は統一協会の広告塔だ」との批判が高まったから大変。彼女は、本作が最後の映画出演となり、1996 年に都内で行われた統一協会のクリスマスフェスティバルを最後に一切の芸能活動を休止してしまった。

もっとも、1980 年の引退コンサートを契機にきっぱりと芸能活動に縁を切ってしまった山口百恵と異なり、Wikipedia によると、桜田淳子は 2006 年にエッセイ集を出版、2007 年には『桜田淳子 BOX スーパー・ライブ・コレクション』を発売し、2013 年にはデビュー40 周年を記念して、本人自薦のベストアルバムに TV 映像集を加えた『Thanks 40 ～青い鳥たちへ』を発売、銀座博品館劇場にて「Thanks 40 スペシャル～ファン感謝 DAY」を開催し、約 21 年ぶりにファンとの交流を果たした。さらに、2017 年には銀座博品館劇場で開催された『スクリーン・ミュージックの宴 with ピアニスター・HIROSHI』にゲスト出演し、80 年代に主演したミュージカル「アニーよ銃をとれ」の主題歌である「ショウほど素敵な商売はない（There's No Business Like Show Business）」や、自身 33 枚目のシングル「化粧」など全 5 曲を披露するなど、統一協会バッシングに負けることなく現在

も芸能活動を続けているから、立派なものだ。

1972 年 4 月に司法修習生となり、1974 年 4 月に弁護士登録をした私は、当然、当時の NHK 紅白歌合戦をはじめとする歌番組を熱心に見ていたし、女性アイドル歌手が大好きだったから、桜田淳子の『しあわせの青い鳥』も大好きな曲の一つだった。そんな桜田淳子が女優として本作のようなキラリと光る才能を見せていたことにビックリ！

■□■「漆場家の憲法」＝「２人のための契約書」の遵守は？■□■

2025 年 1 月 20 日にはドナルド・トランプ氏が第 47 代大統領に就任するが、そこで彼が宣誓する時に手にするのはアメリカ合衆国憲法だ。法治国家では憲法の重要性は言うまでもないが、忘れてならないのは、日本では聖徳太子の時代に「十七条の憲法」があったこと、また明治維新の際には、坂本龍馬が立案した新国家の憲法たる「五箇条の御誓文」の基本となる「船中八策」があったことだ。

それと同じように（?）、夫婦の別居によって、父ケンイチが家を出ていった今、三角の食卓を囲うのは母ナズナと娘レンコの 2 人になってしまったが、そこでナズナが新たな「漆場家の憲法」として徹夜で書き上げたのが、「2 人のための契約書」だ。そこには、

> その日、学校であったこと、仕事であったことはできるだけ話す
> お風呂のこと：掃除は娘レンコ。日曜は二人で。焚きつけは母ナズナ。
> 洗濯：自分のものは自分で。
> ・・・
> 母ナズナが仕事に出ることで、文句は言わない。
> お互いに、相談があるときは邪魔くさがらずに聞く。
> ・・・

等と書いてあったが、さて娘レンコはこれに同意しているの？

1947 年 5 月 3 日に施行された日本国憲法は、その後、「平和憲法」として 80 年近く何の改正もされないまま“定着”しているが、それは当時の日本国民の同意によるもの？それとも戦勝国アメリカからの押し付けによるもの？もし、この「2 人のための契約書」が母ナズナから娘レンコへの“押し付け”であれば、それが正常に機能するとは思えない。そう心配していると、案の定・・・。

■□■レンコの心の揺れと彼女の成長に注目■□■

私は 1967 年 4 月に愛光学園という中高一貫 6 年制の進学校に入学したことによって、一気に学校の成績の降下が始まった。そして、その中で授業や教師への拒絶感や映画、将棋等への逃避（?）、さらに両親への反抗等が始まったが、それは同時に一般的な男の子の「反抗期」に重なっていたようだ。それに対して、小学校高学年で両親の別居という事態に直面したレンコは、家庭では母ナズナとの間で主として前記の憲法をめぐる母子関係に悩み、他方ではクラスメイトたちとの接点に悩んでいた。

クラスメイトたちとのさまざまな葛藤物語の第 1 は、学校で家族にまつわる作文の話題

が出た時。「レン、ネタがありすぎて困るやろ。お父さんとお母さん仲良いやない」と言われたレンコはとっさに嘘の夫婦仲良しエピソードを披露したが、それは一体なぜ？

第 2 は、転校生のサリーちゃんの両親が離婚していることを知ったレンコが、ビンタ合戦まで交わした宿敵であるはずのサリーちゃんと突然仲良しになってしまうこと。そんな和解が気に入らないクラスメイトたちが一斉にレンコに詰め寄るシーンは、今風のイジメに似ているが、そこでレンコは目の前にあった火のついたアルコールランプを手に取って振り回したから大変。ノートや教科書に火の手があがり、非常ベルが鳴り響くという大変な事態に。

第 3 は、レンコが、「俺考えたんや。漆場が幸せになれる方法」と語る友人のミノルがレンコに授けた、「親父の部屋に立て籠もるべし」という思い切った作戦を決行したこと。もっとも、そこでは、同時にミノルが「長引くと不利だから早めに決着をつけるべし。」、「しかし、見せかけは一生閉じ籠もるつもりのようにするべし。」等としていたのがミソだ。

2025 年 1 月中旬の今、韓国は尹錫悦大統領の内乱罪容疑による大統領罷免問題で大揺れに揺れているが、本作にみる漆場家の母子の戦いの展開はいかに？

■□■琵琶湖での彷徨と２人のレンコの邂逅シーンに注目！■□■

私はテアトル梅田が開催した「鬼才・相米慎二は今、世界の “SOMAI” へ」による、『お引越し』と『夏の庭』（94 年）を、同じくテアトル梅田が年末年始に開催した「張芸謀　艶やかなる紅の世界」による『紅いコーリャン』（87 年）、『菊豆』（90 年）、『紅夢』（91 年）の 3 本に続いて鑑賞した。張芸謀と相米慎二は縁もゆかりもないが、私には①ストーリー構成の妙、②色使いの妙、そして③新人女優抜擢の妙の 3 点で、両者の才能が酷似していることを発見！

本作は前述のとおり「お引越し」をテーマとして、別居した両親の下で悩み、揺れ動く小学 6 年生の少女レンコの姿を描くものだが、前半の具体的でわかりやすいさまざまな物語から一転して、クライマックスでは、家出した（？）レンコが一人で琵琶湖を彷徨する姿と、2 人のレンコが邂逅する幻想的なシークエンスになるので、それに注目！

張芸謀の『紅いコーリャン』『菊豆』『紅夢』は紅色の色使いの美しさが際立っているが、それは中国映画なればこそ、似合うものだ。それに対して、京都を舞台とした本作では、京都生まれで京都育ち（祇園育ち）の小学生女優、田畑智子が、いかにも京都や琵琶湖らしい風景、とりわけ美しい花火をバックに森の中を彷徨する姿や、川の中に入って 2 人のレンコが邂逅する姿を何とも幻想的に描いている。小学生の新人女優をそんな抽象的かつ幻想的なシークエンスでいかに演出するかは監督の腕の見せ所だが、そのためには新人女優にもそれに対応する実力が求められるはずだ。

本作の意外に長く続くクライマックスでは、そんな幻想的なシークエンスにおける相米演出と田畑の演技力が、あたかも『紅いコーリャン』『菊豆』『紅夢』における張芸謀の演

出と鞏俐の演技力が同じように見事にかみ合っているので、それをしっかり確認したい。

■□■３２歳の中井貴一が見せる、見事な受けの演技に注目！■□■

近時の中井貴一は、『嘘八百』（17 年）（『シネマ 41』72 頁）、『嘘八百　京町ロワイアル』（18 年）（『シネマ 46』未掲載）、『嘘八百　なにわ夢の陣』（23 年）（『シネマ 52』214 頁）や『記憶にございません』（19 年）（『シネマ 45』未掲載）等の喜劇映画への出演が目立っている。私が中井貴一を初めてスクリーンで見たのは、デビュー作たる松林宗恵監督の『連合艦隊』（81 年）。同作に見る彼のカッコ良さは半端ないもので、まさに“名優・佐田啓二”の長男という血統書付きの“育ちの良さ”を実感させられたものだ。彼のカッコ良さは『四十七人の刺客』（94 年）、『梟の城』（99 年）、『壬生義士伝』（02 年）（『シネマ 2』71 頁）等の時代劇を筆頭に、『ビルマの竪琴』（85 年）、『亡国のイージス』（05 年）（『シネマ 8』352 頁）、『空母いぶき』（19 年）（『シネマ 45』62 頁）等の社会問題提起作でも存分に発揮されていたが、それ以外にも、『武田信玄』（88 年）等の NHK 大河ドラマや『ヘブン・アンド・アース（天地英雄）』（03 年）（『シネマ 5』152 頁）、『単騎、千里を走る。』（05 年）（『シネマ 17』233 頁）、『鳳凰　わが愛』（07 年）（『シネマ 17』257 頁）等の中国映画にも次々と出演し演技力の幅の広さと実力を見せつけた。さらに『寝ずの番』（06 年）（『シネマ 15』433 頁））以降は、前述した喜劇でも軽妙な演技力を見せつけてきた。

本作は、そんな名優・中井貴一が 1993 年に初めて、鬼才・相米慎二とタッグを組んだ作品だが、1994 年に最優秀助演男優賞を受賞した『四十七人の刺客』とは全く異質の、娘レンコと妻ナズナを前面に押し出し、自らは“受けの演技”に徹する形で見事な演技を見せつけているので、それに注目！

2025（令和 7）年 1 月 17 日記